

臨時國語調查會

大正一〇・六・二四
昭九・一二・二二

關係
部局

圖書局第一課(國語調查室) (大正一〇・六——大正一三・一二)

圖書局編修課(國語調查室) (大正一三・一二——昭九・一二)

予算 一六・〇〇〇円 (大正十年度)

○官 制 (大正一〇・六・二五官報)

〔勅 令〕

朕臨時國語調查會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

大正十年六月二十四日

內閣總理大臣 原 敬

文 部 大 臣 中 橋 德 五 郎

勅令第二百八十八號

臨時國語調查會官制

第一條 臨時國語調查會ハ文部大臣ノ監督ニ屬シ普通ニ使用スル國語ニ關スル事項ヲ調査ス

第二條 臨時國語調查會ハ會長一人委員三十五人以內ヲ以テ之ヲ組織ス

前項定員ノ外必要アル場合ニ於テハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

第三條 會長委員及臨時委員ハ文部大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第四條 會長ハ會務ヲ總理シ調査ノ結果ヲ文部大臣ニ具申ス

會長事故アルトキハ文部大臣ノ指名シクル委員其ノ職務ヲ代理ス

第五條 會長ハ會議ニ於テ意見ヲ陳述シ可否ノ數ニ加ハルコトヲ得

第六條 文部大臣ハ必要ニ依リ又ハ會長ノ請求アルトキハ文部省高等官其ノ他適當ト認ムル者ヲシ

テ會議ニ出席シ意見ヲ陳述セシムルコトヲ得

第七條 臨時國語調査會ノ議事ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第八條 臨時國語調査會ニ幹事ヲ置ク文部大臣ノ奏請ニ依リ文部省内ノ高等官ノ中ヨリ内閣ニ於テ

之ヲ命ス

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第九條 臨時國語調査會ニ書記ヲ置ク文部大臣之ヲ命ス

書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○辭

令(大10・六・二七官報)

大正十年六月二十五日

臨時國語調查會會長被仰付

正三位勳一等功三級

森

林太郎

從三位勳二等

上

田

萬

年

正四位勳二等

芳

賀

矢

一

正四位勳二等

服

部

字

之

吉

從四位勳三等

赤

司

鷹

一

郎

從四位勳三等

幣

原

坦

從四位勳三等

湯

原

元

一

從四位勳三等

藤

岡

勝

二

正五位勳三等

德

富

猪

一

郎

勳三等

本

山

彦

一

從四位勳五等

保

科

孝

一

從五位勳五等

山

本

厚

藏

從五位勳六等

厨

川

辰

夫

從七位勳四等

秋

田

清

(各通)

正六位

正六位

正七位

正七位

二〇

大島正徳

有島武郎

松田專吉

前田捨松

巖谷季雄

石河幹明

伊原敏郎

長谷川誠也

千葉龜雄

高田知一

筒井喜平

野村宗十郎

倉辻明義

築田欽次郎

増田義一

松下勇三郎

臨時國語調查會委員被仰付

臨時國語調查會幹事被仰付

○辭 令(大一一・七・二八官報)

大正十一年七月二十七日

臨時國語調查會會長被仰付

文部省參事官

東京高等師範學校教授
兼東京帝國大學助教授

文部省圖書監修官

阿部次郎

木村政次郎

島崎春樹

斯波貞吉

杉村廣太郎

吉植庄一郎

保科孝一

西河龍治

從三位勳二等

上田萬年

從四位勳三等 山崎達之輔

臨時國語調查會委員被仰付

(各 通)

從三位勳二等

上田萬年

正四位勳三等

赤司鷹一郎

臨時國語調查會委員被免

○臨時國語調查會調查發表事項

1 常用漢字表 (大一二・五・九官報三二三〇號附錄雜報六)

2 略字表 (大一二・五・一二官報三二三三號附錄雜報七)

3 字體整理案 (大一一・五・七官報四一六一號附錄雜報一五四)

4 假名遣改定案 (大一一・四・三官報三七五七號附錄雜報八六)

5 假名遣改定案補則——當字ノ廢棄ト外國語ノ寫シ方——

(大一一・五・一二官報四一一三號附錄雜報一四六)

6 漢語整理案

ソノ一 (大一一・五・七官報四一六一號附錄雜報一五四)

ソノ二 (大一一・五・一二官報四二八七號附錄雜報一七六)

ソノ三 (大一五・一二・一五官報四二九四號附錄雜報一七七)

ソノ四 (昭二・三・九官報五五號附錄雜報一八七)

ソノ五 (昭二・六・八官報一三一號附錄雜報二二〇)

ソノ六 (昭二・六・一五官報一三七號附錄雜報二〇一)

ソノ七 (昭二・七・二〇官報一六七號附錄雜報二〇六)

ソノ八 (昭二・七・二七官報一七三號附錄雜報二〇七)

(昭二・一〇・一九官報二四三號附錄雜報二一九)

ソノ九 (昭二・一〇・二六官報二四九號附錄雜報二〇〇)

ソノ十 (昭二・一二・七官報二八三號附錄雜報二二五)

ソノ十一 (昭二・一二・二八官報三〇一號附錄雜報二二八)

ソノ十二 (昭三・六・二〇官報四四三號附錄雜報二五二)

ソノ十三 (ソノ一) (昭三・一二・五官報五八二號附錄雜報二七四)

(ソノ二) (昭三・一二・一九官報五九四號附錄雜報二七六)

7 常用漢字表ノ修正 (昭六・六・三官報一三二六號附錄雜報三九五)

8 假名遣改定案ノ修正 (昭六・六・三官報一三二六號附錄雜報三九五)

9 國號呼稱統一案 (昭九・三・一九會議決定)

○豫 算

臨時國語調查會昭和九年度豫算各目明細書

【第三款 臨時調査費】

科	目	九年度要求額	八年度豫算額	比 較 増 減
第二項	國語調査費	七、三二八	七、三二八	○
大正十年勅令第二百八十八號臨時國語調査會官制參看				
第一目	廳費	八三五	八三五	○
內譯				
備品			二〇〇	
圖書及印刷			四一〇	
筆紙墨文具			七二	
消耗品			一〇〇	
通信運搬			五三	
第二目	內國旅費	一〇〇	一〇〇	○
第三目	諸給	六、一九八	六、一九八	○

第四目 雜 費		一九五	
內 譯		一九五	〇
調查囑託	二 人	一、二〇〇	二、四〇〇
	三	六〇〇	一、八〇〇
雇 員	一		四二〇
給 仕	一		一八〇
委員手當			一、三一四
慰 勞 金			八四
被服費			五
翻譯及謄寫料			五五
諸 謝 金			六五
雜 用 費			七〇

國語審議會

昭九・一二・二三――

主管 圖書局編修課(國語調査室) 昭九・一二――昭一五・二一

圖書局國語課 昭一五・二一――昭一八・二一

教學局國語課 昭一八・二一――昭二〇・七

教學局教學課 昭二〇・七――昭二〇・二〇

教科書局第二編修課 昭二〇・一〇――昭二一・三

教科書局調查課(國語調査室) 昭二一・三――昭二一・一二

教科書局教材研究課(國語調査室) 昭二一・一二――昭二二・四

教科書局國語課 昭二二・四――

○官 制(昭九・一二・二二官報)

〔勅令〕

朕國語審議會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

昭和九年十二月二十一日

內閣總理大臣 岡田啓介

文部大臣 松田源治

勅令第三百三十一號

國語審議會官制

第一條 國語審議會ハ文部大臣ノ監督ニ屬シ其ノ諮詢ニ應ジテ國語ニ關スル事項ヲ調査審議ス

國語審議會ハ前項ノ事項ニ付關係各大臣ニ建議スルコトヲ得

第二條 國語審議會ハ會長一人、副會長一人及委員三十五人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

特別ノ事項ヲ調査審議スル爲必要アルトキハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

第三條 會長、副會長、委員及臨時委員ハ文部大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス

第四條 會長ハ會務ヲ總理ス

副會長ハ會長ヲ輔佐シ會長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

會長及副會長事故アルトキハ文部大臣ノ指名シタル委員其ノ職務ヲ代理ス

第五條 會長及副會長ハ會議ニ於テ意見ヲ陳述シ可否ノ數ニ加ハルコトヲ得

第六條 文部大臣ハ必要ニ依リ又ハ會長ノ請求アルトキハ文部省高等官其ノ他適當ト認ムル者ヲシ

テ會議ニ出席シ意見ヲ陳述セシムルコトヲ得

第七條 國語審議會ノ議事ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第八條 國語審議會ニ幹事ヲ置ク文部大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス幹事ハ會長及副會長ノ

指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理シ臨時命ヲ承ケ國語ニ關スル事項ノ調査ニ從事ス

第九條 國語審議會ニ書記ヲ置ク文部大臣之ヲ命ス

書記ハ會長、副會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臨時國語調査會官制ハ之ヲ廢止ス

○官制改正（昭一五・七・一九官報）

〔勅令〕

朕國語審議會官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

昭和十五年七月十九日

內閣總理大臣

米

內

光

政

文部大臣

松

浦

鎮

次

郎

勅令第四百七十四號

國語審議會官制中左ノ通改正ス

第二條中「委員三十五人」ヲ「委員四十人」ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○官制改正 (昭一六・五・二官報)

〔勅令〕

朕國語審議會官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

昭和十六年五月一日

内閣總理大臣 公爵 近衛 文 麿

文部大臣 橋 田 邦 彦

勅令第五百三十六號

國語審議會官制中左ノ通改正ス

第八條 國語審議會ニ幹事長及幹事ヲ置ク

文部大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

幹事長ハ會長及副會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

幹事ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

幹事長及幹事ハ臨時上司ノ命ヲ承ケ第一條第一項ノ事項ノ調査ニ從事ス

第九條 第二項中「會長、副會長及幹事」ヲ「上司」ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

國語審議會議事規則

第一條 會議ハ會長之ヲ招集ス

第二條 會長ハ會議ノ議長トナリ議事ヲ整理ス

第三條 會議ハ會長、副會長、委員及臨時委員ヲ合セ其ノ半數以上出席スルニアラサレバ之ヲ開ク
コトヲ得ズ但シ豫メ議決ヲ經タル場合ハ此ノ別ニ在ラズ

第四條 議席ハ豫メ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム但シ臨時委員ノ席次ハ委員ノ次トス

第五條 會議ハ公開セス

第六條 發言セントスル者ハ議長ノ許可ヲ受クヘシ

第七條 議事ノ整理上必要アルトキハ議長ハ發言ヲ止メ議事ヲ中止スルコトヲ得

第八條 議事ハ出席ノ委員及臨時委員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

會長及副會長可否ノ數ニ加ハリタルトキハ之ヲ出席員ト看做ス

可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第九條 會長必要ト認ムルトキハ委員及臨時委員ノ中ヨリ主査委員ヲ選定シ審査ヲ爲サシムルコト

ヲ得

第十條 主査委員ヲ以テ主査委員會ヲ組織シ主査委員ノ互選ヲ以テ委員長ヲ置ク主査委員長ハ審査ノ經過及結果ヲ會議ニ報告スヘシ
主査委員會ニハ本則ノ規定ヲ準用ス

○國語審議會に對する文部大臣の諮問事項
發圖二九號

國語審議會

- 一、國語ノ統制ニ關スル件
 - 二、漢字ノ調査ニ關スル件
 - 三、假名遣ノ改定ニ關スル件
 - 四、文體ノ改善ニ關スル件
- 右其ノ會ニ諮問ス

昭和十年三月二十五日

文部大臣 松田源治

○辭 令 (昭九・一二・二四官報)

昭和九年十二月二十二日

國語審議會會長被仰付

國語審議會副會長被件付

正三位勳一等

南

弘

正四位勳二等男爵

穗

積

重

遠

法制局參事官

森

山

銳

一

文部政務次官

添

田

敬

一

郎

文部次官

三

邊

長

治

文部參與官

山

樺

儀

重

文部省普通學務局長

下

村

壽

一

文部省圖書局長

芝

田

徹

心

東京高等師範學校教授

佐

々

木

秀

一

公立中學校長

西

村

房

太

郎

東京府公立小學校長

松

下

專

吉

正四位勳一等

岡

實

從三位勳二等

新

村

出

(各通)

同	同	同	從三位勳三等子爵		同	正四位勳二等	同	正四位勳三等	同	同	同	從四位勳三等	同	同	從四位勳五等	正五位勳四等	正五位
森岡常藏	吉岡郷甫	下村宏	岡部長景	竹越與三郎	宇野哲人	竹村勘悉	藤村作	保科孝一	岡倉由三郎	牧野良三	三宅正太郎	小倉進平	高橋雄豺	安藤正純	大島正徳		

從五位勳六等

勳六等

田澤義鋪

寺田四郎

増田義一

斯波貞吉

板倉卓藏

星野行則

築田欽次郎

五十嵐力

內閣書記官

橫溝光暉

法制局參事官

佐藤基

文部書記官

服部纘

文部省督學官

坂井喚三

文部省圖書事務官

谷原義一

文部省圖書監修官

藤岡繼平

同

佐野保太郎

(各通)

國語審議會委員被仰付

東京文理科大學教授

東京高等師範學校教授

國語審議會幹事被仰付

保科孝一
玉井幸助

○ 辭 令

昭和二十一年八月二十二日（昭二一・八・二二官報）

國語審議會會長被仰付

安倍能成

○ 辭 令（昭二三・六・一七官報）

昭和二十三年六月十二日

國語審議會會長を命ずる

安藤正次

國語審議會委員を免ずる

安倍能成

願に依り國語審議會會長を免ずる

○辭令（昭二四・一一・四官報）

昭和二十三年十月三十日

國語審議會副會長を命ずる

國語審議會臨時委員を免ずる

○國語審議會名簿（昭和二十四年三月十五日現在）

會長 東洋大学 教授

安藤正次

副會長 日本放送協會專務理事 ドクトル・アン・ドロア

古垣鐵郎

委員 京都大学名誉教授

文学博士 新村出

カナモジカイ会長

星野行則

東方文化研究所長

文学博士 宇野哲人

東京大学名誉教授

工学博士 竹村勤吾

東京大学名誉教授

文学博士 篠田欽次郎

前田捨松

教育研修所長

文学博士 務臺理作

古垣鐵郎

東京大学名誉教授

文学博士

姊崎正

治

東京大学教授

文学博士

時枝誠

記

九州大学教授

文学博士

佐久間

鼎

読賣新聞社長

医学博士

馬場恒

吾

医学博士

木下正

中

東京大学名誉教授

工学博士

佐野利

器

東京音楽学校長

小宮豐

隆

關口

泰

井上眼科病院長

医学博士

井上達

二

法務廳法制長官

佐藤達

夫

大藏省印刷局長

原久一

郎

文部政務次官

柏原義

則

文部政務次官

左藤義

詮

文部次官

伊藤藤目出

登

文部省学校教育局長

日高第

四

文部省科学教育局長

茅誠

司

臨時委員

文部省社會教育局長

文部省教科書局長

柴沼直
稻田清助

京都大學教授兼東京大學教授

文學博士

倉石武四郎

京都大學名譽教授

文學博士

吉澤義則

九州大學名譽教授

文學博士

春日政治

東京大學教授

文學博士

東條操
島津久基

東京文理科大學名譽教授

文學博士

神保格

東京文理科大學名譽教授

文學博士

諸橋轍次

國學院大學教授

文學博士

金田一京助

東京都立第一高等學校長

文學博士

菊池龍道

東京都台東區立坂本小學校長

文學博士

宮川菊芳

法政大學教授

文學博士

谷川徹三

早稻田大學教授

文學博士

吉村繁俊

東京大學助教授

文學博士

海後宗臣

日本放送協会報道部長

自由学園長

カナモジカイ理事長

日本ローマ字会常務理事

言語文化研究所理事長

國語協会常務理事

朝日新聞用語改善委員

毎日新聞社編集局付

読賣新聞社編集局主事

東京新聞社校閱部長

時事新報社論說委員

日本經濟新聞社調查部長

共同通信社調查部長

東京大学助教授

大東文化学院教授

文学博士

文学博士

高橋武治

村岡花子

羽仁說子

松坂忠則

佐伯功介

長沼直兄

石黒修治

池上退藏

藤森良信

鹿住徳一

楓井金之助

紺野四郎

松井武夫

瀧口義敏

服部四郎

原富男

東京文理科大学教授

成蹊学園初等学校主事

東京都立第五高等学校長

文学博士

東京家政大学学長

国立國語研究所第一部長

埼玉師範学校教授

幹事長

文部省調査員

幹事

文部大臣官房文書課長

文部省教科書局 第一編修課長
第二編修課長

文部省教科書局國語課長

文部事務官

同

竹田 復

滑川 道夫

吉田 甲子太郎

澤登 哲一

土岐 善麿

青木 誠四郎

岩淵 悅太郎

吉田 澄夫

保科 孝一

森田 孝

大島 文義

釘本 久春

廣田 榮太郎

關市 宣

書記

同	同	文 部 事 務 官	文 部 省 研 究 員	同	同	同	同	同	同
---	---	-----------------------	----------------------------	---	---	---	---	---	---

福	鹿	塩	三	林	齋	細	白	藤	石
田	島	田	宅		藤	井	石	井	森
安		紀	武			房	大	信	延
男	巖	和	郎	大	正	夫	二	男	男

○國語審議會議案目錄 昭一〇・一——昭二〇・五

漢字字體整理關係議案

- 1 國語審議會官制
- 2 國語審議會名簿 ソノ一
- 3 國語審議會調查審議要項
- 4 臨時國語調查會ノ事業
- 5 國語審議會名簿 ソノ二
- 6 國語審議會審議事項
- 7 簡易字体ノ取扱
- 8 漢字整理案整理方針
- 9 尋常小學國史ニアル常用漢字以外ノ文字
- 10 許容体案
- 11 漢字ノ正体及別体
- 12 現在支那ニ行ハルル略字ノ例
- 13 簡易字体
- 14 略字表
- 15 標準字体、許容字体
- 16 宋元以來俗字譜
- 17 簡易字体增補(案)
- 18 簡易字体ノ系統文字
- 19 字体整理案拔萃

一三二

- 20 簡易字体審議(終了ノ分)
- 21 簡易字体增補
- 22 簡易字体
- 23 詔勅ノ中ニミエタル簡易字体關係ノ文字
- 24 敎部公布之簡体字
- 25 字体整理案ノ分類
- 26 字体整理案分類細目
- 27 第一種文字、第二種文字
- 28 字体ノ整理
- 29 再考ノ文字 ソノ一
- 30 再考ノ文字 ソノ二
- 31 字体ノ整理
- 32 字体整理案凡例草案
- 33 字形变化表
- 34 常用漢字表修正ニヨル增補候補ノ文字
- 35 字体整理案
- 36 漢字整理項目(吉岡主査委員案)
- 37 字体整理案修正案(吉岡委員提出)
- 38 凡例
- 39 旧讀本中字典体ト異ル漢字
- 40 修身書、國語讀本中ノ漢字(字体整理ニ關係ノアルモノ)

- 41 教育勅語中ノ漢字（字体整理ニ関係アルモノ）
 42 詔勅法令ノ漢字中字体整理ニ関係アルモノ
 43 詔勅法令中ノ字体整理ニ関係アル文字トソノ系統字
 44 凡例ニ挿入スベキ事項

号外

漢字字体整理案

漢字字体整理案ノ説明

漢字ノ調査ニ関スル主査委員会委員長報告ノ要旨

標準漢字関係議案

- 57 常用漢字表再検討ニ関スル方針
 58 常用漢字選定ノ方針
 59 常用漢字調査資料目錄
 60 常用漢字中字音ノミヲ使用スル文字
 61 常用漢字調査資料
 62 常用漢字資料比較表（ソノ一）
 63 常用漢字資料比較表（ソノ二）
 64 熟語調（ソノ一）
 65 三省堂蒲田活版工場ニオケル三年間ノ漢字使用頻度調査
 66 熟語調（ソノ二）
 67 常用漢字資料比較表（ソノ三）

- 68 漢字字体整理案報告案
 69 報告第一案 報告第二案
 70 漢字字体整理案ニ対スル批評
 71 昭和十二年五月十八日付新潟高校教授坂部重壽ヨリノ回答
 72 答申案
 73 熟語調（ソノ三）
 74 新聞ニオケル漢字出現度数（字音ト訓ヨミト分ケテ調ベタモノ）
 75 東京朝日新聞ニオケル活字鑄造数調査
 76 常用漢字審議ノ結果（ソノ一）
 77 常用漢字資料比較表（ソノ四）
 78 熟語調（ソノ四）
 79 熟語調（ソノ五）
 80 熟語調（ソノ六）
 81 常用漢字審議ノ結果（ソノ二）
 82 常用漢字選定ノ基準
 83 常用漢字資料比較表（ソノ五）
 84 熟語調（ソノ七）
 85 常用漢字選定ノ基準
 86 常用漢字使用ニ関スル注意事項
 87 臨時國語調査会所定常用漢字表ノ能率調査
 88 常用漢字資料比較表（ソノ六）

107	106	105	104	103	102	101	100	99	98	97	96	95	94	93	92	91	90	89
常用漢字資料比較表(ソノ十三)	熟語調(ソノ十四)	常用漢字資料比較表(ソノ十二)	熟語調(ソノ十三)	常用漢字資料比較表(ソノ十一)	熟語調(ソノ十二)	常用漢字資料比較表(ソノ十)	熟語調(ソノ十一)	常用漢字資料比較表(ソノ九)	國語読本ト書方手本ノ異ル字体	字体整理案中國語読本ノ字体ト一致シタ文字	字体整理案中書方ノ字体ト一致シタ文字	國語読本ニ採用希望ノ字体	熟語調(ソノ十)	常用漢字資料比較表(ソノ八)	熟語調(ソノ九)	常用漢字資料比較表(ソノ七)	熟語調(ソノ八)	代名詞、副詞、接統詞、感動詞、助動詞及ビ助詞ノ中仮名デ書キウルモノノ例
124	123	122	121	120	119	118	117	116	115	114	113	112	111	110	109	108		
常用漢字使用例	常用漢字選定ノ基準	詔勅文字第一種文字対照表	常用漢字ノ取扱上ノ基準	常用漢字選定ノ基準	第一一七号案ノ説明	歷代天皇御諡号	第一種文字	常用漢字資料比較表檢討ノ結果	ツタモノ	常用漢字表審議ノ結果第二種文字及ビ特別文字トナ	再考ノ文字	兵器名称用制限漢字表中常用漢字以外ノ文字	陸軍第一種文字、第二種文字	常用漢字資料比較表ノ文字ノ意味ニヨル分類	常用漢字資料比較表ヲ審議シタ結果(ソノ二)	常用漢字資料比較表ヲ審議シタ結果(ソノ一)	熟語調(ソノ十五)	

- 125 第二種文字
- 126 特別文字
- 127 陸軍漢字ノ抄出
- 128 第一種文字
- 129 第一一七号案審議ノ結果
- 130 第一種文字、第二種文字、特別文字ノ数
- 131 陸軍技術本部ヨリ常用漢字中ニ追加サレタキ旨希望シテ來タ文字
- 132 現行國定教科書ニ奉掲ノ詔勅
- 133 國定教科書ニ一部分奉掲ノ軍人勅諭等ノ文字ニシテ第一種文字第二種文字ニ採用サレテキナイモノ
- 134 第一二五号審議ノ結果留保トナツテキル文字
- 135 海軍省ヨリ常用漢字中ニ採用サレタキ旨希望シテ來タ文字
- 136 特別文字關係ノ詔勅法令
- 134 漢字ノ用法
- 135 「互」又ハ「亘」ニ付テ「祐」又ハ「佑」ニ付テ
(森山委員提出)
- 139 第二種文字
- 140 特別文字
- 141 臨時國語調査会制定ノ常用漢字表ノ使用率調査
- 142 常用漢字選定ノ基準
- 143 漢字ノ用法
- 144 第二次檢討ニ際シテ第二種文字及ビ特別文字中ヨリ削除トナツタ文字
- 145 第一種文字中ノ指数25以下ノ文字
- 146 第二種文字中指数30以上ノ文字
- 147 第一次檢討ニ際シテ削除トナツタ文字中指数20以上ノモノ
- 148 第一種文字、第二種文字選定ノ基準、第二種文字中指数10以下ノ文字
- 149 文部省図書局編修課提案第二種文字ヨリ第一種文字ニ繰上ゲテ希望シテ來タ文字
- 150 常用漢字選定ノ基準
- 151 常用漢字ノ品詞概数
- 252 漢字整理表
- 153 漢字ノ用法
- 154 常用漢字選定ノ基準

- 155 漢字ヲ仮名書キニ改メ得ル場合、漢字ヲ仮名書キニ改メルコトノ困難ナ場合
- 156 第一種文字、第二種文字ノ意義ニヨル分類
- 157 常用漢字表マタハ選定漢字表
- 158 漢字ノ用法
- 159 凡例
- 160 漢字整理表
- 161 昭和十六年十二月八日漢院詔書中ノ文字デ漢字表ニナイモノ、第一種デモ振仮名ヲ要スルト思フモノ、第二種デモ振仮名ヲ要シナイト思フモノ、第二種デ振仮名ヲ要スルト思フモノ
- 162 漢字整理表原案ニツイテ（倉石委員提出）
- 163 簡易字体
- 164 東京朝日新聞社デ使用サレテキル略字（昭和十七年三月現在）
- 165 東京日日新聞社デ使用サレテキル略字
- 166 略字表、國語読本ノ略字提出予定、陸軍使用ノ略字、内閣印刷局ノ略字表
- 167 漢字表
- 168 漢字表
- 169 各方面ヨリノ回答ニヨル標準漢字表ノ修正案
- 170 標準漢字表ニ対スル各方面ヨリノ回答ノ要領（ソノ一）
- 171 標準漢字表ニ対スル各方面ヨリノ回答ノ要領（ソノ二）
- 172 簡易字体ノ取扱
- 173 漢字字体整理案中ノ簡易字体
- 174 簡易字体ニ関スル調査資料
- 175 標準漢字表ニ関スル修正
- 176 標準漢字表ニ対スル第一次字体整理ノ結果
- 177 標準漢字表答申文案（ソノ一）
- 178 簡易字体表
- 179 標準漢字表答申文案
- 180 標準漢字表選定經過報告
- 181 標準漢字表ノ例言ニ追加ノ條文
- 182 簡易字体
- 183 簡易字体ニ関スル圖書局長ノ質問書
- 184 標準漢字表ニ対スル賛否意見概要（反対意見）

号外

皇室関係ノ用語ニツイテ

漢語整理

義務教育教科書ニ奉掲及奉掲見込ノ詔勅（昭和十七年十月現在）

標準漢字表

漢字ノ調査ニ関スル主査委員會委員長報告要旨

標準漢字表選定經過概要

標準漢字表選定經過報告

新字音仮名遣関係議案

- 1 仮名遣改定論議要略（第一集）昭和六年五月より昭和七年二月に至る
- 2 仮名遣改定論議要略（第二集）昭一三・一二刊
- 3 明治二十六年井上文部大臣ノ字音仮名遣ニ関スル諮問ニ対シテノ答申問目一則（前文部大臣井上毅氏ノ仮名遣改定意見）
- 4 海外ニオケル教科書ニ実行サレツアル改定仮名遣
- 5 欧米ノ漢字改良ト我國ノ仮名遣改定（保科孝一）
- 6 常用漢字表、仮名遣改定案、漢語整理案
- 7 仮名遣改定ノ方案
- 8 音訓交ヘ詭ムモノ及ビ字訓ノ如ク用キラレル字音ノ取扱方ニ関スル資料
- 9 字音仮名遣整理案
- 10 例言
- 11 陸軍兵器名称、及用語ノ簡易化ニ関スル規定
- 12 昭和十六年四月四日、第七回仮名遣主査委員會ニオ

ケル決定事項

地名及ビ一般ノ語彙ニシテ字音カ國語カソノ語源ノ不明ナモノノ例

14 仮名遣改定諸案ニオケル「くわ」「ぐわ」ノ取扱

15 字音仮名遣整理案

16 例言

17 仮名遣問題沿革資料

18 明治以降ニオケル仮名遣問題文献目錄

19 例言

20 字音仮名遣整理案ノ適用範圍

21 字音仮名遣整理案ノ実行法

22 字音仮名遣整理案ニ対スル卑見（臨時委員春日政治）

23 字音仮名遣整理案ニ対スル各方面ヨリノ回答ノ要領

新字音仮名遣表

号外

字音整理案（特ニ慣用音ニツイテ）

字音ノ整理ニ関スル調査資料

字音ノ整理ニ関スル調査資料ニツイテ

イハユル慣用音ト字典音トニツイテ

新字音仮名遣表

新字音仮名遣表審議經過報告

字音仮名遣整理ノ理由

國語ノ横書ニ関スル議案

國語ノ横書ニ関スル件（昭和十七・七・十七決定）

國語ノ横書ニ関スル審議經過報告

漢語整理關係議案

- 1 漢語整理ニ関スル一般方針
- 2 漢語ノ言換ヘニ関スル方針
- 3 漢語整理案（ソノ一）
- 4 漢語ノ言換ヘニ関スル方針（昭和十八年七月十六日
第二号案審議ノ結果）
- 5 熟語調べ
- 6 読方整理案（ソノ一）
- 7 読方整理案ニツイテ
- 8 漢語整理案（ソノ二）
- 9 漢語整理參考資料対照表
- 10 漢語整理參考資料
- 11 読方整理案（ソノ二）
- 12 漢語書方整理案要項
- 13 読方整理案參考資料

- 14 読方整理參考資料対照表
- 15 読方整理案參考資料一、二、三
- 16 慣用音ノ「日本字音」トシテノ確認
- 17 読方整理案
- 18 漢語用例集
- 19 朝日新聞社用語例集報
- 20 漢語ノ言換ヘニ関スル整理方針
- 21 漢語ノ読方ニ関スル整理案
- 22 読方整理案
- 23 慣用音一覽表
- 24 漢語整理案（ソノ三）
- 25 漢語整理參考資料対照表
- 26 漢語用例集
- 27 漢語整理案（ソノ四）
- 28 漢語名及和語名ヲ左ノ如ク外來語ニ改メ一般ニ之ヲ
使用スルコト外來語ハスベテ片仮名書キトスルコト
- 29 読方整理案

標準漢字表再検討に関する主査委員会議案

昭二〇・一二——二一・四

号 (題目または内容)

- | | | | | | |
|---|-----------------------------|------------|----|----------------------------------------------------------|--------|
| 一 | 標準漢字表(昭和十七年六月)再検討に関する目
標 | 二〇・一二・二〇 | 八 | 標準漢字表の準常用漢字中より採用すべき文字 | 二・二一 |
| 二 | 標準漢字表の常用漢字中より削除すべき文字 | 二一・一・二〇 | 九 | 朝日新聞東京本社における昭和二十一年一月十日間の漢字活用(鑄造)徴調査(朝日新聞東京本社印刷局長河合勇委員提出) | 二・二二 |
| 三 | 同 其二 | 二一・一・二〇 | 十 | 第五号議案に対する各委員の回答要旨 | |
| 四 | 標準漢字表中、常用漢字第一次審議の結果 | 二一・二・四 | 十一 | 準常用漢字中の留保文字 | |
| 五 | 標準漢字表再検討に関する目標二一・二・九 | | 十二 | 標準漢字表再検討の結果 | 二一・四・四 |
| 六 | 赤坂委員の意見 | 二一・一二・一附手紙 | 十三 | 常用漢字より削除した文字 | |
| 七 | 常用漢字の意義による分類 | | 十四 | 「例言」案 | |
| | (標準漢字表第一次審議の結果に基く)二・一六 | | | 「常用漢字表」(一二九三字)案 | |

漢字制限に関する主査委員会議案

昭二一・六——二一・九

- | | | | | | |
|---|--------------------------|--------|---|------------------------|------|
| 一 | 官廳新聞社等より常用漢字表に採用希望の文字その一 | 二一・六・四 | 五 | 漢字をカナ書きに改め得る場合 | 六・二三 |
| 二 | 固有名詞における漢字の整理について | | 六 | 昭和十七年六月発表標準漢字表の漢字選定の基準 | 六・二三 |
| 三 | 度量衡貨幣等に関する漢字の調査 | 六・一五 | 七 | 師範科学用語としての採用希望の文字 | |
| 四 | 助数詞一覽 | 六・一八 | 八 | 大藏省より採用希望の文字 | |
| | | 六・二一 | 九 | 農林省より採用希望の文字 | |
| | | | 十 | 第一号議案審議の結果 | |

十一	朝日新聞社より採用希望の文字	七・一七	二十六	当用(常用)漢字表のまえがき
十二	日本経済新聞社より採用希望の文字	七・一七	二十七	商工省商務局長からの回答(中央度量衡検定所、特許標準局からの追加採用希望の漢字)
十三	例言案、代表音訓選定の方針		二十八	新聞社よりの採用希望の文字
十四	東京新聞社より採用希望の文字	七・二一	二十九	略体採用によつて所屬部首の変る文字
十五	朝日新聞社、運輸省より削除希望の文字	七・二一	三十	「爵」その他の文字の部首についての意見
十六	留保文字、固有名詞の文字、採用文字表七・三七		三十一	削りたいと思う文字の私案(三宅囑託)
十七	固有名詞の取扱ひ方に関連して例言案に及ぶ		三十二	逋信省より採用希望の文字
十八	中國固有名詞の取扱ひについて	七・五	三十三	大西雅雄著「日本基本漢字」との対照
十九	簡易字体表	八・二	三十四	全國府縣都市名の文字
二十	簡易字体の分類		三十五	地名人名の整理に関する話題要目
二十一	簡易字体字源表	七・一五	三十六	標準名づけ文字五百字のうち新漢字表にないもの
二十二	常用漢字表に追加する漢字		三十七	学士会會員名簿にあつて新漢字表にない文字
	同削除する漢字		三十八	昭和六年五月常用漢字表にあつて新漢字表にない文字、常用漢字表になくて新漢字表にある文字
	付一、留保漢字		三十九	当用漢字表のまえがき
	付二、憲法草案中、新漢字表にない漢字			前書きまたは委員長報告に盛つてもらいたいとおもう数項
二十三	仮設質問答弁要項案			通檢參考資料
二十四	各官廳より要求ありたるものの中不採用の文字			
二十五	留保文字、常用漢字表より削除の文字			

かなづかいに關する主査委員會議案

昭二一・六——昭二一・九

号

昭和十七年七月國語審議會「新字音仮名遣表」

一

昭和十七年五月國語審議會「字音仮名遣整理案」
昭和六年五月臨時國語調査会「仮名遣改定案」

- 二 かなづかい書誤り能力別調査表
(昭和十六年十一月号「國語運動」よりぬきがき)
- 三 常用漢字表使用の場合同表暫定使用の場合
二一・六・二〇
現狀の場合のかなづかいのちがいの研究表(藤村委員提出)
- 四 新聞記事からかなづかいと語との關係を調査したもの
(安藤委員長提出)
- 五 「かなづかい整理の根本方針」案
二一・六・二五
- 六 かなづかいの問題について私見 三宅囑託提出
六・二六
- 七 字音連声の書きかた等について 三宅囑託提出
- 八 昭和二十一年四月十日選挙公報の氏名のふりがなのかなづかい カナモジカイシラベ
- 九 かなづかい改定諸案における「じぢ」「ずづ」の取扱
國語調査室
- 十 ジヂ、ズヅに関する調査
國語調査室
- 十一 かなづかい改定諸案における「くわ」「ぐわ」の取扱
國語調査室
- 十二 かなづかい改定諸案における助詞「は」「へ」「を」の取扱
國語調査室
- 十三 國語かなづかい改定案に基く口語法
- 十四 國語かなづかい改定案に基く文語法
- 十五 かなづかい改定案による文法の変化
- 十六 ハ行四段活用動詞の調査
- 十七 原則案の一部(オ列長音ウ列拗音に関する規則)
- 十八 長音のかなづかいに関する調査
- 十九 「新かなづかい表」案
二一・八
- 二十 新旧仮名遣対照表
- 二十一 拗長音の書き方についての一つの公論調査報告
(調査期日 昭和二十一年三月)
- 二十二 新かなづかい表の「注意事項」案
- 二十三 外來語のうつしかた
(臨時國語調査会発表漢字漢語仮名遣整理案のうち)
- 二十四 「現代かなづかい案」
(資料)
昭和二一・九
- 仮名遣改定ニ関スル諸案集成
昭和一四・二
- 明治三十三年八月小学校令施行規則ニヨツテ公布ノ 改定字音仮名遣「其壹」
- 明治三十八年二月國語調査委員会へ諮問ノ 仮名遣改定案「其式」
- 仮名遣諮問ニ関スル答申書「其参」
- 明治四十一年五月臨時 仮名遣改定案「其四」
- 文部省ニ於ケル國語調査ノ經過
昭和一六・四

音訓整理に関する議案

二一・一二——二二・九

1 音訓整理に関する方針

2 当用漢字音訓整理資料

3 当用漢字音訓表まえがき案

4 同

5 同

6 当用漢字音訓表(案)

当用漢字別表に関する議案

1 当用漢字表

2 教育漢字選定中間報告(小学校用第二読会了)
中学校用第一読会了)

3 教育漢字(案)と國語教科書漢字との引合せ表

4 教育漢字選定資料その一 各種漢字表対照一覽

5 同 その二 当用漢字事項別分類

國語審議會決定答申事項

1 漢字字体整理案

昭一三・七・一四 第三回總會決定答申

2 仮名遣改定ニ関スル件

昭一四・三・一四 第四回總會決定答申

3 標準漢字表(常用一一三四、準常用二三二〇、特別七四)

6 事項別分類による参考案 第一

7 同 第二

8 科学用語として存置希望の文字 第二編修課

9 まえがき

10 整理の方針について

11 義務教育九年間で読む上に書くことをも要求する漢字
(第一参考案による修正案)

12 11号案に対する教科書局の希望意見

13 教育用漢字についての意見 松坂委員提出

14 当用漢字別表(案)

字体整理に関する議案

1 活字字体整理案 昭二二・一二——二三・五(別項)

中國地名人名の書きかたに関する議案

1 かながき中國地名人名一覽(中國語かながき委員會編)

計二五二八、簡易字体一四二)

昭一七・六・一七 第六回總會決定答申

4 新字音仮名遣表

昭一七・七・一七 第七回總會決定答申

5 國語ノ横書ニ関スル件

- 同
- 6 現代かなづかい 昭二一・九・二二 第十一回総会決定答申
- 7 当用漢字表（一八五〇字、内簡易字体一三一字） 昭二一・一一・五 第十二回総会決定答申
- 8 当用漢字音訓表 昭二三・六・一 第十四回総会決定答申
- 9 当用漢字別表 昭二二・九・二九 第十三回総会決定答申
- 10 当用漢字字体表 同
- 國語審議會年度別會議一覽

年 度	会 議 回 数	附 議 事 項	決 定 答 申 事 項	備 考
昭和 十年	總 会 一 回 主 査 会 一 二 回	漢字字体の整理（第一回総会）		
昭和 十一年	主 査 会 九 回	同		
昭和 十二年	總 会 一 回 主 査 会 五 回	同 （第二回総会）		
昭和 十三年	總 会 一 回 主 査 会 一 五 回	漢字字体の整理（第三回総会） （常用漢字の選定） 仮名遣の調査	漢字字体整理案	第三回総会
昭和 十四年	總 会 一 回 主 査 会 一 五 回	（常用漢字の選定（第四回総会）） 仮名遣の調査	仮名遣改定に関する件	第四回総会
昭和 十五年	主 査 会 一 二 回 陸軍懇談会 一 回	常用漢字の選定 仮名遣の調査		
昭和 十六年	主 査 会 三 四 回 漢字 三 四 回 仮名遣 四 回	常用漢字の選定 仮名遣の調査		
昭和 十七年	總 会 三 回 主 査 会 一 六 回 仮名遣 二 回	標準漢字表案（第五回総会） 新字音仮名遣表（第六回総会） 國語の横書きに関する件（第七回総会）	標準漢字表 新字音仮名遣表 國語の横書きに関する件	第六回総会 第七回総会

昭和十八年	主査会	八回	漢語整理（言いかえ、読方、書方の整理）		
昭和十九年	主査会	一二回	漢語整理		
昭和二十年	総会 主査会	一回 二回	標準漢字表再検討に関する件 （第八回総会） 漢語整理		
昭和二十一年	総会 主査会 漢字 仮名遣	四回 三一 一回 一回	常用漢字表案（一二九五字） （第九回総会） 現代かなづかい（第十一回総会） （第十回総会） 当用漢字表（一八五〇字） （第十二回総会） （当用漢字表一八五〇字） （第十二回総会） 当用漢字音訓表 （第十二回総会） 当用漢字別表	現代かなづかい （第十一回総会） （第十回総会） （第十二回総会） （第十二回総会）	第十一回総会 第十二回総会
昭和二十二年	総会 主査会 音訓別表 字体	一回 二九回 三四回 一回	当用漢字音訓表 （第十三回総会） 活字字体整理案	当用漢字音訓表 （第十三回総会） 同別表	第十三回総会
昭和二十三年	総会 主査会 字体 主査会 中国地名人名七回	一回 十五回 七回	当用漢字字体表 （第十四回総会） 中国朝鮮地名人名かながきに 関する件	当用漢字字体表 （第十四回総会）	第十四回総会
昭和二十四年	主査会 中国地名人名二回 総会	二回 一回	中国地名人名かながきに 関する件 中国地名人名かながきに 関する件 國語審議会の組織運営刷新に 関する件（第十五回総会）		

附

○活字字体整理に関する協議会 昭二二・七・一五

一、趣旨

今日教科書に用いられている活字も新聞雑誌等一般社会において用いられている活字もその字体が不統一であつて教育上印刷能率上、はなはだしく支障が感ぜられている。ところが最近印刷界では戦災その他のため活字の字母を新しく造る必要が多く活字字体を整理統一するには好機であると考えられるので、この際学界印刷関係者官界から適當と認めるものを協議員に委嘱して、活字の字体を整理統一する具体案を求め教科書に用いるものを統一するだけではなく、一般社会において用いられるものもこれにならうようにすすめて、文字教育の効果をあげ、教育上の負担を軽くしようとするものである。

二、要項

1 協議員に委嘱すべき者

学 界	大東文化学院教授文学博士	原 富 男
新聞界	東京新聞社校閲部長	楓 井 金 之 助
	日本印刷学会副会長	山 上 謙 二
	印刷図書館館長	川 田 久 長

印刷技術者(新聞社)

朝日・毎日・經濟
東京・読賣・時事各一名

(印刷会社)

大日本印刷株式会社

凸版印刷株式会社

帝國印刷株式会社

三省堂

出版株式会社
専務取締役

(鑄造会社)

二葉

商會

岩田活版母型製造所

官廳

大藏省印刷局技官

文部省教科書局長

文部省教科書局庶務課長

同

第一編修課長

同

國語課長

2 期間及び回数

昭和二十二年七月から八月末まで毎週三回

3 協議事項

一、活字字体整理の方針について

六	神	山	山	今	木	岩	小	稻	近	林	釘
名	津	岡	田	井	村	田	林	田	藤	傳	本
	福	謹	美	直	喬	百	榮	清	唯		久
	松	七	穗	一	宥	藏	一	助	一	次	春

二、活字字体整理案

イ、簡易字体の字について

ロ、異体字について

ハ、同系統の字について

三、整理された字体の適用について

三、経費（略）

四、備考

1 当省関係官はこの協議会に出席して意見を述べることが出来る。

2 この協議会で決定した活字字体整理案は國語審議会の審議を経て音訓整理教育漢字の制定と同時に発表する予定である。

○活字字体整理に関する協議会総会（昭二二・一〇・一）

活字字体整理案協議決定、國語審議会主査委員会へ移管。

昭和二十二年十月十日

活字字体整理に関する協議会委員長

稲田清助

國語審議会会長 安倍成殿

活字字体整理に関する協議会では、昭和二十二年七月二十三日から十月一日まで十七回の協議会を開いた結果別冊のような活字字体整理案を作りました。これを貴会に送付いたしますから、御審議を願います。國語審議會、活字字体整理に関する協議会連名で世論調査 昭二二・一二

〔備考〕質問書送付先・各官廳・銀新・出版・編修・文筆・文化關係

計二〇二〇 回答数 一七三

質問書

現在用いられている活字の字体は字によつてはなはだまちまちで、かつ、字画のこんだものが、なお相当にあります。これを整理し統一し簡易にすることは、当用漢字表制定の趣旨にそい、教育上にも印刷上にも、急務であると考えられます。そこで、この夏文部省に設けられた。活字字体整理に関する協議会では、当用漢字表中の漢字について、教科書ばかりでなく、一般の印刷物にひろく用いられる活字の基準となるように、別表のような字体整理の原案を作りました、これは、國語審議會の審議を経た上で、公に制定されますが、それに先立つて大方の御批判を得て、審議の参考といたしたく存じます。ついては、附録の説明を御参照の上、別記の事がらについてお答え下さいますようお願いいたします。

昭和二十二年十二月

活字字体整理に関する協議会

國語審議會

別記

この活字字体整理案について附録の説明を御参照の上、左の事がらにお答え下さい。

一、この案に対して、賛成か不賛成か。

不賛成とすれば

1、活字の字体は、整理をする必要がないと認められるのかどうか。

2、活字として点画に変更を加えること（者の点をとつたり、溫の𠂔を𠂔にするようなこと）は、不必要だと認められるのかどうか。

3、筆写の楷書体とのちがいを少なくすること（爪を𠂔にしたり、𠂔を𠂔にしたりするようなこと）は、不必要だと認められるのかどうか。

4、この案は、現在の明朝体をとつているが、明朝体という字体の体系は原則的に根本的に改めるべきだと考えられるのかどうか。

5、その他

二、この案の中で、不適當と認められるのは、どれか。

三、この案に第二案として掲げられたものの中で、正体として採用することのできるのは、どれか。

四、この案に掲げた七七四字以外に、当用漢字表の範囲で、手を加えるべきものはないか。

五、この案についてのその他の意見。

まえがき

(略)

活字字整理案

(略)

國語審議会字体整理に関する主査委員会

昭二二・一二——昭二三・五

十六回

第十四回國語審議会総会 昭二三・六・一

「当用漢字字体表」決定答申

附記 今日まで、漢字の字体整理の問題が公にとりあげられたのは、次のようなものがある。

1 大正八年七月 文部省普通学務局から「尋常小学校の各種教科書に使用せる二千六百余字」について『漢字整理案』が発表された。

2 大正十二年五月 臨時國語調査会から『常用漢字表』が発表され、一五四字の簡易字体が採用された。

3 大正十四年十一月 臨時國語調査会から『常用漢字表』について二〇二〇字の『字体整理案』が発表された。

4 昭和十二年十月 國語審議会から『常用漢字表』（昭和六年五月臨時國語調査会発表）の一八五八字について『漢字字体整理案』が発表された。